

令和五年

松香 Komunikado

令和五年十月度 秋季大祭 ごあいさつ

分苑長 山本 健

Saluton al ĉiuj

ただいまは松香分苑の令和五年の秋季大祭並びに祖霊慰霊祭を、遠方からもご参拝いただき、さすがに齋行させていただきました。ご参拝・ご奉仕くださいました皆様方、又オンライン参拝並びにお玉串をお送りくださりました方々、誠に有難うございます。相談役が生前、「祖霊慰霊祭で、子孫の誰かが、参拝やお玉串をしている人の先祖は、大手を振って前のほうにいるが、子孫がそうでない場合は、先祖は後ろの方で隠れるようにしている」と言っていたことが思い出されます。今後もぜひご参拝をよろしくお願いいたします。

十月八日発行

第三百七号

大本松香分苑

豊橋市南牛川二・三・二〇

電話 ファックス

〇五三二一・六三二・二一七三

発行責任者 山本 健

先日、十月一日の万祥殿月次祭において、香風支部並びに西分所の方々には、下足、掃除のご奉仕いただきました。有難うございました。

さて、今日は九月十八日に行われました、香良洲神社の中遷座祭と、松香分苑について、の二点お話しさせていただきます。

まず、香良洲神社の中遷座ですが、二十年毎に伊勢神宮の遷座の翌年に同様に新しく建てたお宮に遷座されますが、その中間地点、つまり十年経った時点で、修復や掃除などを行うために、一時仮遷座に移られて、きれいになった元のお宮にお戻りなる祭典が、中遷座祭です。

夜八時から、電気をすべて消して、提灯の灯りのみの中で行われ、御神体を奉持されている宮司様は白い布で囲われて移動されました。シーンとした中で、警蹕が何とも言えない気持ちの良いもので、稚姫君の命様が移らている感じを受けました。その後、休憩をはさみ、お宝ものの移動が行われます。それを拝見しようとして残っていますと、三重主会の方が、「教主様との御面会を」と声をかけてくださり、先代の小林宮司様の奥様の、手作りのお菓子と共にお薄の接待を頂戴し、教主様とご挨拶させていただきました。思いがけない、大変なご神徳を頂きました。

香良洲神社側より、「教主様のご参拝を」とお声がかかり、今回の教主様、本部長様の参列となったのですが、実は以前、県の神社関係の長が代わられた際に、「地域と関係のない、教団がここでお祭りするのはおかしいと、言われましたが、神社総代の方が、三重主会長の日野様が、車で二時間半もかかる距離なのに、二十年以上境内、お宮の掃除をされていることを話すと、それならば信頼できる教団でしょうと、今回、お教主様がお招きいただいたことが実現いたしました。大本では、「あれでならこそ」と言われるようになりましょうとお示しくださっていますが、まさにその好事例でありました。

次に、松香分苑についてですが、平成元年二月に三代教主様から、「松香分苑について」お言葉を頂きました。御承知の方も多いと思いますが、その中で、「松香分苑は、大本神教宣伝使松本マツ子先生が、大神様からいただかれた御神徳によって拓かれ、かつ育ててこられた信徒の方々の集いあう神聖な家であります。それで、分苑名も地名でなく、同分苑の香り高い不動の信仰を象徴した言葉になっています。」とあります。今回、ある方のお取次ぎの実績を調べるべく、相談役の平成十七年までのお取次ぎ手帳と冊子合わせて百四十二冊をすべて見直しました。そこで気が付いたのですが、松香に所属している方、及び松香分苑に献金などしてくださった準松香信徒と仮称しますが、その方々のみが、めぐりを取っていたいていました。ですから、他機関の方のお取次ぎの実績は、先ほど述べました準松香信徒の方のみです。従って、我々松香の信徒は、松香という大家族なのです。松本先生、文子相談役、そして斌子とつながっています。

是非、この大きな松香という救いの御船に、皆が乗船して、無事に天国に行けるように、本部が行っている諸行事や綾の郷事業などに、誠心誠意お仕えさせていただきますでしょう。